

# 図書館通信

最上校図書委員会 No.2 4月21日



4月23日・子ども読書の日  
「みんなでよもう たくさんよもう」  
2025年4月23日～5月12日



## 第67回こどもの読書週間 「あいことばは ヒ・ラ・ケ・ホ・ン！」

広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために、制定されました。子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、誕生した取り組み

で、子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えましょうという取り組みでもあります。ぜひ、この機会に本を読んでみましょう。



## 『宙わたる教室』 伊与原新著

年齢も背景も異なる定時制高校の生徒たちが科学部を結成&前代未聞の実験に挑む。

実話に着想を得た胸熱の青春小説に共感の声が続々！

## 『成瀬は信じた道をいく』 宮島未奈著

成瀬の人生は、今日も誰かと交差する。「ゼゼカラ」ファンの小学生、娘の受験を見守る父、観光大使になるべく育った女子大生。



## 読書週間！ 高校生に贈る読書のすすめ！



★図書館から、いろいろなジャンルのオススメの本を紹介します。

### 『あなたの言葉を』 辻村深月著

あの時、のみこんだひと言。いま感じている気持ち。その言葉はいつか必ず、あなたを助けてくれる。さあ、一緒に「あなたの言葉」を探しにいきましょう。



### 『休むヒント』 群像編集部編

休みの日、何もせず気づけば夕方になっている。そんなあなたに！豪華33名の執筆者が自身の休み方を赤裸々に紹介。「休む」を見直すエッセイ・アンソロジー！



### 『迷いのない人生なんて』 共同通信社編

家族との葛藤、仕事の失敗、親しい人との別れ、挫折。迷いを抱えながら生きる人への共感とエールを込めた1冊。



### 『ネットでいじめられたら、どうすればいいの？』 春名風花著

誹謗中傷や嫌がらせなどのSNSいじめ。見えづらいいじめの対応策と心のケアを弁護士、精神科医などの専門家と考えた。あなたと大事な誰かを守る1冊。



### 『何回説明しても伝わらない』はなぜ起こるのか？ 今井むつみ著

人は、自分の都合がいいように、いかようにも誤解する生き物です。では、都合よく誤解されないためにどうするか？自分の考え方を“正しく伝える方法”は？



### 『考え方ひとつで明日はもっとうまくいく』 内藤誼人著

結局、今のわたしが一番いい！心からそう思える100のヒントをまとめました。ポジティブ心理学の知見にもとづき、考え方や行動のどこをかんがえたらいいかを解説。



### 『読書は鼻歌くらいでちょうどいい』

大島梢絵著

読書初心者には、本好きさんになる出会いの1冊に。本好きさんには、もっと本好きになる1冊に。



# 読書週間におすすめの新刊!

## 『ゲートはすべてを言った』 鈴木結生著

ひとつの言葉を巡る統一の旅は、創作とは何か、学問とは何か、という深遠な問いを投げかけながら、読者を思いがけない明るみへ誘う。

## 『二十四五』 乗代雄介著

喪失を抱えたまま生きていく、祈りの記録。

五年前に亡くなった叔母の痕跡を求めて、

往復する時間の先にあるものとは。

## 『楽園の楽園』 伊坂幸太郎著

大規模停電、強毒性ウィルスの蔓延、飛行機墜落事故などが立て続けに発生し、世界は急速に混乱に陥った。これらすべての原因は謎の人工知能、天軸の暴走と考えられた。選ばれし3人は、人工知能の開発者が残したという巨大な樹の絵画、楽園を手掛かりに、暴走する天軸の所在を探る。旅路の果てには、誰も想像できない結末が待ち受ける。

## 『PRIZE ープライズー』 村山由佳著

どうしても、直木賞が欲しい。賞 (prize) という栄誉を<sup>どうも</sup>擲猛に追い求める作家・天羽カインの破壊的な情熱が<sup>ほとばし</sup>迸る衝撃作! 本を出せばベストセラー、映像化作品多数、本屋大賞にも輝いた。それなのに、直木賞が獲れない。文壇から正当に評価されない。私の、何が駄目なの? 何としてでも認めさせてやる。全身全霊を注ぎ込んで、絶対に。

## 『僕には鳥の言葉がわかる』 鈴木俊貴著

古代ギリシャ時代から現代に至るまで、言葉を持つのは人間だけであり、鳥は感情で鳴いているとしか認識されていなかった。

その常識を覆し、シジウカラが20以上の単語を組み合わせて文を作っていることを世界で初めて解明した研究者による科学エッセイ。

## 『Nの逸脱』 夏木志朋著

何気なく開けてしまった隣人の扉、フツウの奥に隠されていたものは? 追う者と追われる者が入れ替わり、善と悪が反転していく予測不可能な展開。隣の人たちが繰りひろげる3つの物語。

## 『C線上のエリア』 湊かなえ著

育った家のごみ屋敷となり果て、久しぶりに戻った美佐。家を片づけていく過程で金庫を発見する。そこからひもとかれる、家族にさえ言えなかった叔母の秘密とは? 新たに挑む、先が読めない介護ミステリ。

## 『目には目を』 新川帆立著

罪を犯した「本当は良い子」の少年たち。奪われた命が、彼らの真実を浮かび上がらせる。重大な罪を犯して少年院で出会った六人。彼らは更生して社会に戻り、二度と会うことはないはずだったが? かつての少年六人のうち、誰が被害者で、誰が密告者なのか?

## 『逃亡者は北へ向かう』 柚木裕子著

人生を変えるために青年は北を目指した。震災直後に殺人を犯し、死刑を覚悟しながらもある人物を探すため姿を消した青年・真柴亮。刑事の陣内康介は津波で娘を失いながらも容疑者を追う。ふたりはどこへ辿り着くのか? 東北を舞台に描く震災クライムサスペンス。

## 『口外禁止』 下村敦史著

突然届いた一通のメール。人生逆転の方法は口外禁止!? 共感! 疑惑! 驚愕! 圧巻の長編ミステリー。パッとしない大学生の元に突然、プロデュース通りに行動すれば、人生うまくいくというメールが届く。半信半疑で従った結果、彼の日常は急速に好転し始めるが、ある日不可解な事件に巻き込まれて?

## 『死んだら永遠に休めます』 遠坂八重著

無能なパワハラ上司に苦しめられながら毎日深夜まで働き詰めの生活を送る28歳の主人公・青瀬。突然失踪したパワハラ上司・前川から届いたメールの件名は「私は殺されました」。本文には容疑者候補として「総務経理本部」全員の名前があった。限界会社員・青瀬と妙に

頭の冴える派遣社員・仁菜は二人で真相解明に取り組むのだが?

## 『月収』 原田ひ香著

それぞれの月収に見合う生活を送る6人。

欲しいもの、不要なもの、そして、お金では買えないもの。

※ぜひ、図書館へ!

